

## 町制施行 60 周年記念式典 式辞 （全文）

五木の緑が連なる木曾谷に 遠く岩の間を流れゆく木曾川。この素晴らしい景色も、朝晩めっきりと冷え込むようになり山々の木々も着飾る季節となってまいりました。本日「文化の日」にあたるこの佳き日に、後藤茂之厚生労働大臣はじめご来賓各位のご臨席を頂く中で南木曾町町制施行六十周年記念式典を挙げる運びとなりました。本来であれば、この晴れの場に大勢の皆様に参加して頂き開催すべきところではありますが、申すまでもなく、まだまだ新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小しての開催となります事、誠に遺憾であるのと同時に、どうかご理解いただきますようお願い申し上げます。

さて、昨年来コロナに翻弄される私達ですが、そういった中でも記念すべき式典を行えるのも、これまで陰に陽に町政発展のためにご尽力頂いた諸先輩、先人、関係の皆様、そして住民の皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。

昭和三六年一月一日に「読書村」「吾妻村」「田立村」の三村が合併して南木曾町が誕生以来、早や六十年。人と言えば還暦にあたる区切りの年であります。この間に町は様々な面で発展を遂げることが出来、ここに住む人達も平和で幸せな生活を営むことが出来ることとなりました。

残念ながら過疎化の波だけにはあがえず、合併当初は一万人を超えていた人口も今は四千人を割る程になっていることは寂しい限りではありますが、しかしここに住む町の人達は、南木曾町民としての矜持を持ち、今も皆で力をあわせ理想の町づくりに励んでいます。誰しもが健康で生き生きと暮らし、そんな人々が集まって元気あふれる地域や町を創り出して行かねばなりません。そして恵まれたこの大自然と美しい景観とともに、「なぎそ」という歴史と文化に育まれた町を次世代に引き継いでいくことが私達の責務でもあります。

若者の流出、少子化、高齢化などで人口が減って集落や産業の維持が厳しくなっている現実に加え、新型コロナウイルスの感染拡大、多発する大規模自然災害など新たな課題への対応も求められる昨今ですが、これからも「ふるさと南木曾」が一層輝きを増せるよう、へこたれず前を向き先を見据えて頑張っていかなければなりません。「星まで高く飛べ」という島崎藤村先生の深き教えにも導かれながら、小さくても輝き続けられるよう、町民一丸となって常に高みを目指し、力を重ねてまいる所存です。どうか今後とも関係各位の変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日表彰を受けられる皆様には誠にめでとうございます。皆様方には永年にわたり町づくりの各分野において、献身的な活動を続けられたり、町政の進展や、住民の皆さんの模範となる徳業を示すなど、多大な貢献をして頂きました。これまでのご努力やご労苦に対しまして敬意を表すると共に、支えてこられましたご家族や関係の皆様も含めまして、深く感謝を申し上げます。今後とも培われた尊い経験、見識、知見を町のためにご教示頂ければ幸いに存じます。

結びに、このように式典を開催できたことに心から感謝申し上げ、一日も早いコロナの収束と平穏な日常が戻ることを願い、併せて皆様方の一層のご活躍とご多幸ご健勝、そして「ふるさとなぎそ」の限りない創造未来と繁栄を心から祈念しながら式辞といたします。

（令和3年11月3日 南木曾町社会体育館）